

REPORT

「キャリアデザインのための女子学生懇談会」を開催

2月6日(金)、理学部の女子学生を対象に、「大学院ってどのようなところ?」をテーマとした懇談会を開催しました。(会場:理学部一号館11番教室)松野理学部長からの挨拶に続き、理学部教授である山崎鈴子女性研究者支援室長が女性の社会進出や大学院修了者の就職状況等について説明。次に、本学博士後期課程の垣内田翔子さん(情報科学専攻)が、自身の研究内容や大学院進学の理由、大学院生活、アメリカへの留学経験を、様々な写真とともに和やかな語り口で紹介しました。その後、垣内田さんと博士前期課程の3人の女子大学院生が、会場内を巡りながら参加者からの質問に対応。お茶やお菓子も交えて会話も弾み、賑やかな会となりました。約30人の参加者からは「大学院や研究活動に対する興味が深まった」と好評。第二弾も実施する予定です。



垣内田 翔子さん

講演会「女性研究者支援の現状・課題(広島大学の事例)」を開催

3月5日(木)、広島大学の中坂恵美子氏(広島大学副理事、男女共同参画推進室長)を招き、広島大学の支援策についてお話をいただきました。(主会場:常盤キャンパスD31講義室)。中坂氏は、男女の「事実上の平等」を促進するための「暫定的な特別措置」であるアファーマティブ・アクションの概念について説明し、その措置を差別とみなしてはならないことを強調されました。また、女性教員の絶対数を増やすことの重要性にも触れ、広島大学が女性教員の計画的採用により数値目標を達成させたことが紹介されました。女性教員の増加により、ネットワーク形成やスキルアップ等の効果も見られるそうです。

講演は吉田及び小串キャンパスにも配信され、100人以上の教職員が参加し、質疑応答も活発になりました。



中坂 恵美子氏

◆ PROGRAM ◆

研究補助員制度がスタートします

妊娠・育児・介護等のライフイベント時の研究者を支援します。

支援内容 大学院生等による研究補助業務の提供(150時間以内/期)

対象者 女性研究者又は男性研究者のうち配偶者が大学等で雇用されている研究者で、妊娠・育児・介護等のライフイベントにより十分な研究時間を確保できない者

期間 ◎第一期:4月~9月末 ◎第二期:10月~3月末

◆ 詳細、お申込みについてはホームページをご覧ください。支援室にもお気軽にご相談ください。◆

カウンセリングを行います

女性研究者や女子大学院生を対象とします。各キャンパスで実施します。

● カウンセラー 桜井 恵(臨床心理士)

吉田キャンパス	事務棟1階	保健管理センター内	月曜日 午前・午後
小串キャンパス	医心館2階	保健管理センター内	木曜日 午前(予定)
常磐キャンパス	本館2階	女性研究者支援室 常磐分室内	木曜日 午後(予定)

学内託児スペースのご案内

本学(吉田キャンパス)で開かれるシンポジウムや学会などの際に、大学会館2階の音楽鑑賞室が託児スペースとしてご利用いただけます(要事前手続き)。



INFORMATION

支援室から情報発信!

パンフレットを作成

事業目的や組織体制、取組みを分かりやすく紹介しています。



ホームページをリニューアル

支援情報や活動報告を分かりやすく紹介するため、ホームページをリニューアルします!

アクセス
お待ちしています!



発行

山口大学女性研究者支援室

協力: 山口大学男女共同参画推進室

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業(一般型)」

〒753-8511 山口市吉田 1677-1(吉田キャンパス) 共通教育棟 2F

T E L : 083-933-5997 内線5997

U R L : <http://wr-shien.kenkyu.yamaguchi-u.ac.jp/wr-shien/>
e-mail : wr-shien@yamaguchi-u.ac.jp

山口大学女性研究者支援室

NEWS LETTER

March.
2015

モバイル版は
こちらから▶

山口大学 女性研究者 検索

vol.01

INDEX

- 女性研究者支援室 本格始動 01
- コーディネータ紹介 01
- [特集] 室長対談 02-03
- レポート 04
- プログラム 04
- インフォメーション 04

NEWS LETTER – Yamaguchi University Support Office for Female Researchers

専任コーディネータ着任! 支援室いよいよ活動本格始動!

女性研究者支援室は、平成26年8月の設置以来、女性研究者が活躍する場の充実を図るために職場環境の整備や制度の準備を進めてきました。昨年秋には、平成26年度科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業(一般型)」に採択され、これから様々な事業を本格的にスタートさせていきます。

本年1月には、吉田キャンパスの支援室(共通教育棟本館2F)を新たに整備。ミーティングスペースを設けた親しみやすい空間となっています。2月には、専任コーディネータとして田立紀子が着任しました。山崎鈴子室長を中心に、男女共同参画推進室や各学部等と連携しながら、スタッフ一丸となって支援活動を進めています。

今後、当ニュースレターはじめホームページ等で積極的に情報を発信していきます。お問い合わせ等ありましたら、お気軽に支援室へご連絡ください。お待ちしています。



▲ 岡学長(中央)、山崎室長(右から2番目)、左から野村、田立、右から小島



長い長い冬が終わり、いよいよ春ですね。
さて、このたび創刊号として、
特別企画を組みました。
次頁からの「室長×室長 対談」は必読です!

専任コーディネータ 田立 紀子 コーディネータ

地域活性化型NPOから東証一部上場のIT企業まで、多岐にわたるフィールドを駆け巡り、マネジメントや産学公連携等のコーディネート業務に携わって参りました。大学での研究経験と企業等での実務経験、また、過去に男女共同参画功労者として内閣府より大臣表彰を賜った経験を活かし、本学の女性研究者が世界で活躍できる職場環境の充実を目指して尽力したいと思います。当支援室では、リラックスした雰囲気づくりを心掛けております。些細なことでも構いませんので、おしゃべり感覚でお気軽にお越しください。個人相談や出張相談も承ります。



山口大学が目指す未来とは

女性研究者支援室長の山崎鈴子教授と男女共同参画推進室長の鍋山祥子教授に、女性研究者支援、男女共同参画、それぞれのお立場からお話を伺い、本学が目指す未来について考えてみました。



山崎 鈴子

女性研究者支援室長（学長特命補佐）
大学院理工学研究科 教授

「光化学特論」を担当。光触媒上での反応機構の解明、光触媒を利用した環境汚染物質の分解や無害化などを研究テーマとしている。

社会の在り方を根本から見直す

鍋山：平成23年、中国・四国地区の10国立大学が、男女共同参画社会の実現を目指して「男女共同参画推進のための共同宣言」を行いました。これを受けて、山口大学における男女共同参画を全学的に推進する目的で、平成24年に男女共同参画推進室が設置されました。男女共同参画推進室では、男女ともにワーク・ライフ・バランスのとれた働きやすい職場づくりを目指しています。しかし、本学における男女共同参画への取り組みは、まだ始まったばかりです。

山崎：男女共同参画社会基本法は平成11年に制定されました。しかし、約16年経った今でも、



鍋山 祥子

男女共同参画推進室長
経済学部 経済学科 教授

「地域福祉社会学」「ジェンダー論」を担当。
現在、遠距離介護とワーク・ライフ・バランスの関連について研究を進めている。

本学の女性研究者の割合は全体の約14%、理系では6%の学部もあり、依然として低いのが現状です。一方で、経済を活性化するためには、女性の社会進出が必要とされており、日本政府は2020年までに社会のあらゆる分野において指導的な地位に占める女性の割合を30%まで引き上げる目標を掲げています。欧米では女性が責任あるポストに就くことがごく自然なこととして捉えられており、男女参画への高い意識が見受けられます。これに対して日本では、女性の社会参画が遅れています。人材育成を使命とする大学は、こうした社会の変化に対応した人材を輩出していくなければなりません。そのためには、学生にとってロールモデルとなるような女性

研究者を増やして、女性研究者がライフイベントを迎えるもキャリアを中断することなく活躍できる研究環境を整備することが必須です。こうした課題を解決するために、昨年8月、本学に女性研究者支援室が設置されました。

鍋山：他大学と比べても、本学では男女共同参画の意識は低く、取り組みも遅れています。そもそも男女共同参画を推進する必要性や必然性についての問題提起自体もなされていませんでした。また、女性研究者支援と聞くと、男女を問わず、なぜ女性ばかりを優遇するのかと思われる方も少なくないと思います。

山崎：実は、私も抵抗がありました。室長を拝命する前は、なぜ「女性」ということを強調しなくては

いけないのかと疑問を抱いていました。しかし、他大学での取り組みなどを聞きするうちに、女性を優遇する目的ではないことが分かってきました。日本の経済を活性化するためには、これまで当たり前だと思っていた男女の役割分担意識や一的な働き方を変えていく必要がある、と。男性も女性も平等に活躍する社会を目指して、個々の意識を変え、社会の在り方を根本から変えていくことが強く求められています。

鍋山：確かに、これまで支援がなくても自力で仕事と家庭の両立をされてきた皆さん、なぜ今頃になって女性を特別視するのかという抵抗があるかもしれません。男性からはなぜ女性だけを特別扱いするのかという疑問もあるかと思います。そこが、全員の賛同を得にくい理由だと思います。女性研究者支援室と男女共同参画推進室とでは、対象や活動内容は異なりますが、誰もが働きやすい職場環境をつくるという最終目標は共通しています。誰が得、誰が損という話ではなく、男女共同参画の推進は、すべての人の働きやすさにつながっていることを理解していただきたいのです。性別による固定概念にとらわれず、そこから一歩先に進むことが大切だと思います。

山崎：大学では、教員を目指す学生も育てています。また、教員でなくとも、いずれ社会人としてあるいは親として、次の世代を支える子ども達に影響を与えていくでしょう。ですから、今、大学教員であるわれわれの使命は重要です。まず、教員一人ひとりが男女共同参画の意識を共有し、学生の皆さんにその意識をしっかりと植えつけて、社会で活躍してもらうことで、ようやく社会が変わっていくのだと思っています。

山口大学における具体的な取り組み

鍋山：男女共同参画推進室では、男女共同参画についての情報発信や意識啓発のためのホームページを開設しました。具体的には、ワーク・ライフ・バランスの支援制度、統計データや意識調査の開示などを行っています。また、学生との協働によって、山口大学の男女共同参画の現状を点検したり、ワーク・ライフ・バランスのロールモデルを紹介するリーフレットを作成しています。

山崎：昨年11月、女性研究者支援のための取り組みが、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」に採択されました。これを受けて、女性研究者支援室では、平成26度から28年度までの3年間に、5つの項目を重点的にさまざまな取り組みを加速的に進めています。

一つ目は、全学的な意識改革と価値観の共有です。教職員の意識改革はもちろん、女性研究者を対象とするキャリアデザイン支援、男子学生も含めた学生への意識啓蒙などを目的とした講習会を行っていく予定です。

二つ目は、ワーク・ライフ・バランスの支援です。ライフイベントを抱える女性研究者を支援するために、研究補助員制度の導入、学内託児スペースの確保などを行います。

三つ目は、女性研究者同士のネットワークづくりです。シンポジウムや各種講習会、交流会などを通じて、横のつながりを強化していきます。

四つ目は、研究力の強化です。外部資金獲得のための申請書の書き方、英語で論文を投稿するための勉強会などがこれに当たります。

最後は、女性研究者の裾野の拡大です。高度な知識と研究力を身に付けた学生や大学院生を世の中に輩出するため、将来の参考となるロールモデルの紹介などの取り組みを行っていきます。大学院進学者の大半を男子が占めているので、女子の進学を促進することも考えています。

新任教員の皆さんに対しては、新しい環境に慣れるまでが大変だと思いますので、メンター制度を導入し、職業上のモデルとなる先輩が、研究やキャリア形成、ワーク・ライフ・バランスなど、さまざまな相談事に対応していきます。支援室には専属のカウンセラーを配置します。支援室は、地域との連携を図り、育児や介護に関するさまざまな情報を提供するなど、しっかりとバックアップをしていきます。

鍋山：こうした取り組みは、女性研究者だけに限らず、山口大学を誰もが働きやすい職場にするための最初のステップにつながります。

山崎：支援室は、ライフイベントを抱えても研究活動が継続できるように、さまざまな支援を女性研究者に対して行いますが、結婚、出産、育児、介護といったライフイベントは本来女性に限定されるべきものではありません。女性研究者の数が少なすぎる現状を積極的に改善するための措置です。女性

も男性と同じように、ライフイベントの有無にかかわらず、自分の能力を発揮できる社会に変えていかなければいけません。

鍋山：それに、すべての人が24時間仕事だけに専念できるわけではありません。ライフイベントのあるなしに限らず、多様な人々が個々の能力を發揮して安心して仕事ができる体制づくりに力を注いでいきたいと思っています。

男女共同参画の実現に向けて

山崎：今後は、女性研究者の割合を、現状の約14%から17%（平成28年度末）に引き上げることが一つの目標です。平成30年度には、理系女性教員の割合を10%にしたいと考えています。現在、女性教員が存在しない理系の学科にも、遅くとも5年以内には女性教員を

確保したいと思っています。ただ単に女性教員が増えるだけでは、真の男女共同参画は実現しません。大学全体を変えていくためには、意思決定の場に女性が参画することが必要です。そのため、それぞれの学部に女性教授が誕生してほしいと願っています。

鍋山：もともと社会は男女で構成されています。職場でも男女両方が活躍できることが理想です。ですから教員、職員とともに管理的役割を担う女性を増やすことを目指しています。

山崎：現在、女性研究者支援室は独立していますが、これは加速期である最初の3年間だけであり、その後は、男女共同参画推進室の下部組織となります。

鍋山：今は、男女共同参画を加速的に進めるため女性に焦点が置かれがちですが、男女共同参画は性別に関わらず、すべての人に関わる問題であるという認識を是非とも持っていただきたいですね。今後も、他大学や関係機関と連携しながら、本学における男女共同参画の取り組みを推進していきたいと思っています。これまで支援に頼らざる「おたがいさま精神」で助け合ってこられたのは本学の強みではありますか、支援や制度

なしには男女共同参画社会は実現できません。ライフイベントなどの問題を抱えてお困りのときは、ぜひご相談いただければと思います。男女とも、生活しながら働くことは不可能ではなく、当たり前にそれができる社会にしていきたいと思っています。

